

□ コミュニティバス導入計画

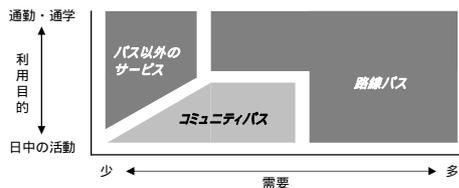


バス交通に関しては、バス事業者が計画・運行するのが一般的で、都市行政として公共が主体的に計画することは稀なことでした。しかし、マイカー利用の増加からバス利用離れが進み、経営面から路線の廃止等が行われ、さらに規制緩和によってこのことが加速されました。

このことが契機となり、民間バス会社では運行が困難な地域において、公共が、都市行政としてコミュニティバスを主体的に計画・運行することが盛んになりました。

弊社の交通部門では、コミュニティバスの導入検討、社会実験、本格導入計画業務等を行い、現在もそのうち4路線が好評を得て運行が続いている実績を有しております。

1 コミュニティバス導入の成功の秘訣



コミュニティバスは、その9割が失敗しているとも言われており、慎重な検討が必要です。失敗する典型的パターンは、まず導入ありきで導入理念が後回しとなっている場合です。

導入の目的は、市民の方の様々な活動の障害を、バスという観点から解決することです。したがって、どのように困っており、その困っている人が、どの程度、どこに存在するのかを把握し、それに相応しい交通システムを検討し、その中でコミュニティバスの役割を決めることが重要です。

また、コミュニティバスは、地域のきめの細かい問題（市民が真に困っていること）に対応することから、市民参加、パブリック・インボルブメント手法が不可欠です。

2 コミュニティバス導入の手順

コミュニティバスの導入に当たっては、検討調査、社会実験と市民参加型で段階的に進め、本格運行を行っていくことが重要で、また、導入後も定期的にフォローアップ調査が必要です。

検討協議会、グループミーティング、アンケート調査、ヒアリング調査、コメントカード、ネーミング公募

導入検討調査

バス交通等の現状
問題点把握
導入方針
需要予測・効果予測
運行計画

社会実験

実験目的の検討
効果、影響等の計測項目
実験運行計画
広報・PR計画
実験評価と運行計画評価

本格運行

運行計画
ルート・バス停決定
路線申請
広報・PR・イベント企画

3 コミュニティバス導入事例



府中市では、検討協議会、社会実験を行い、市内に4路線を計画し、本格運行を実施することができました。現在、4路線の利用者は3000人/日になっており、現在も利用者が増加中です。

このコミュニティバスの導入目的は次のとおりです。

- 公共交通機関の利便性を向上させる。
- 移動制約者の社会活動機会の増大に寄与する。
- 市の中心部や市内の公共施設、商業施設へのアクセス性を高め、まちづくりに寄与する。

この導入目的が達成されたかをアンケート調査等で検証したところ、次の結果が得られ、目的達成を果たしました。

- 目的 乗換え回数の減少した人が25%
- 目的 外出機会が増大した高齢者が70%
- 目的 中心商業地への外出が平均で2倍に増加

運行ルート



4 関連業務実績・参加団体

- ・東京都府中市コミュニティバス導入検討調査（平成12年度～平成15年度）
- ・仙台市オムニバスタウン計画策定調査（平成11年度～平成12年度）
- ・仙台市オムニバスタウン計画推進調査（平成15年度）
- ・静岡市オムニバスタウン計画策定調査（平成15年度）
- ・相模原市コミュニティバス運行計画策定調査（平成17年度）
- ・福山市生活バス交通利用促進計画策定調査（平成17年度）
- ・バス交通に関わる学識経験者が設立した「BUSNET FORUM（バスネット研究会）」に賛助会員として活動に参加しています。



セントラルコンサルタント株式会社

<http://www.central-con.co.jp>

お問い合わせ先：東京事業本部 環境交通部 交通グループ